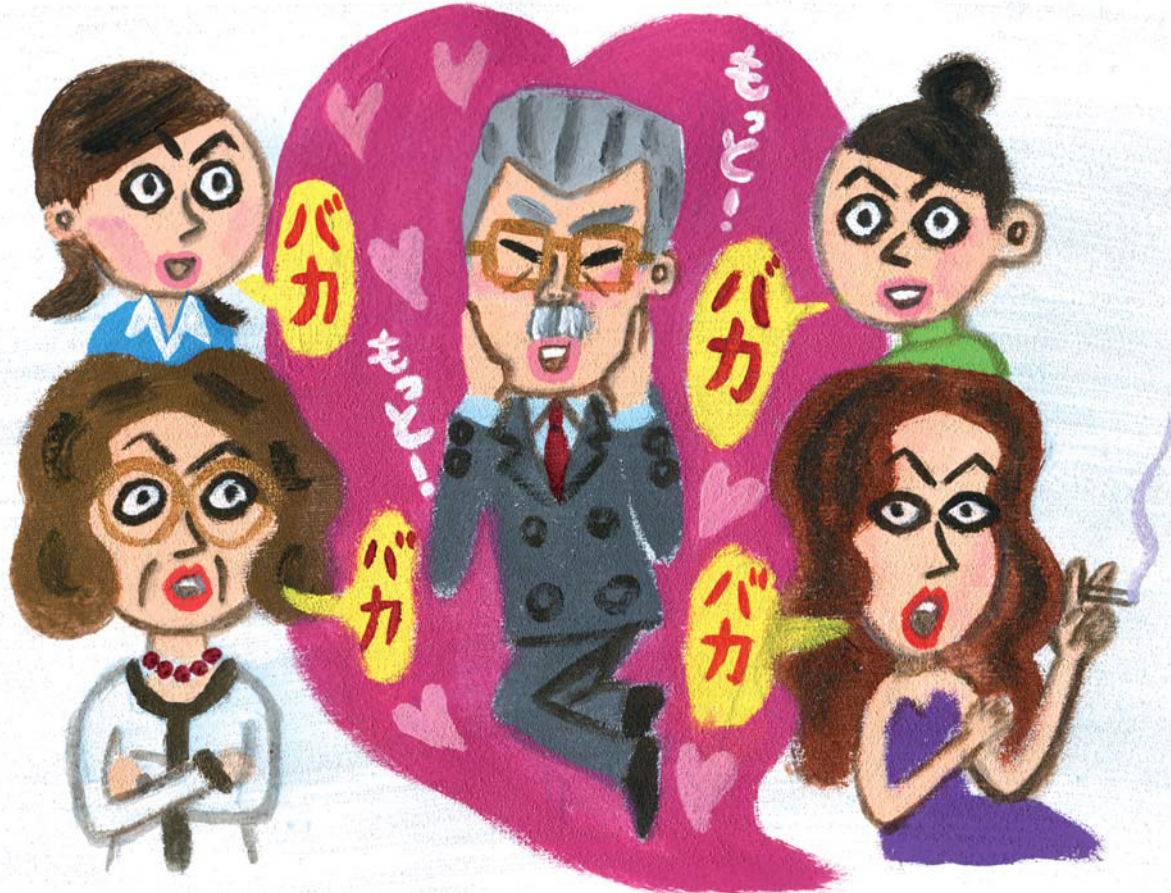


# コトバカッ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。バカに言葉に詳しい人。バカみたいに言葉にこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んで相川藍、下から読んで相川藍。コトバカの相川藍が、言葉についてコトバカル!

## バカと呼ばれたい?

コトバカ

言葉家の相川藍です。肩書きに「バカ」が入っているなんて「ヘン」とか「カワイイ」とか言われますが、私はバカという言葉、意外と好き。親しげにバカ呼ばわりされるのは嬉しいし、バカには「専門バカ」のニュアンスもあるし。

だけど、今の仕事を始めたばかりのころ、師匠からいきなりバカのレッテルを貼られたのはショックでした。キミはどんな花が好きなのと聞かれ「チューリップ」と答えたら「バカっぽくて君にぴったりだね!」と。当時はおバカキャラという言葉もポジションも確立しておらず、軽かむかついた私は「それ、私にもチューリップにも失礼です」って言い返したりして。なんてバカ正直だったんだろっつ。

最近、バカとかアホとか言われると嬉しそうな顔をする人が増えました。とくに、ふだん敬語でしか話しかけられることがないような偉いオジサマは、飲み会で女子にビールを注がれながら「○○さん、バカですわね」なんて突っ込まれるとニコニコしてる。一度、そんな光景を目撃した私が「はっかみたい!」と思わず声に出したら、本人に聞こえて

しまい焦ったことが。そのオジサマ、固まると思いきや「あははははは!」とタガがはずれたように、いっそう喜んでくれました。どれだけタメ口に飢えているんだか、日頃のご苦労がしのばれます。

バカの行き着く先には、ヘンタイという素敵な言葉もあります。とりわけマニアックな仕事に没頭している系の人は、ヘンタイと言われると、身もだえしながら「エへへ。もっと言って〜」という感じの親密なりアクションをする。こういう人は最初から「ボク、ヘンタイですが」と自己申告しますしね。ただし、くれぐれもターゲットを間違えてはいけません。先ほどのオジサマには、ヘンタイという言葉はNG。偉い方々の中には、ホンモノの変態も多いからシャレにならないんです! お疲れ気味のオジサマとのコミュニケーションは、あくまでもバカどまりで。

あいかわ あい ことばか  
相川 藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。